

大宮
まほろば
新聞

Vol.020

2024年9月1日発行

OMIYA
LIBRARY

あさみかずみ
浅見和史さん
秩父出身で父や祖父
も神職に就いていたこ
ことから自身もこの
道に。大学の神道学科
卒業後、2002年に
氷川神社に奉職。

悠久の神域、
氷川神社

大宮まゆつこ新聞はめでたく20号を迎えました。そんな記念すべき号にお邪魔をしたのは約280社ある氷川神社の総本社、2400年以上の歴史をもち「大宮」という地名の由来にもなった武蔵一宮氷川神社です。今回は権禰宜（ごんねぎ）神職の職称のひとつの浅見和史さんにお話を伺いました。

—初めて参拝に来られた方に、周辺の見どころを教えてください。
日本一長い氷川参道は2kmの直線が続き、道の両側に植えられている木のおよそ60%は樺の木です。そのため新緑の時期は美しいですね。11月下旬頃から迎える紅葉の季節もおおすすめです。冬は葉が枯れまが雪が降った日の早朝はまだ足跡がつかない、幻想的な景色になり、写真を撮りに来られる方も見かけます。

—年間60以上の祭典があるそうですが、大変なことはありませんか？
毎月の献詠祭（けんえいさい）※和歌を詠み神前に奉る祭り）などは30分程度ですが、大湯祭（だいとうさい）※氷川神社独自でおこなわれる特別な祭典）の時期は11月30日から後斎の12月11日まで泊まり込みで、毎夜祭典に取り組みます。初詣は成人の日を含む三連休など三ヶ日以外も繁忙で、参拝の分散化によって1月通して賑わっています。

—気軽に参加できる行事はありますか？
2月の節分と6月の大祓（おはらえ）でしょう。秋には観月雅楽演奏会があり、神楽・舞楽をご覧いただけます。神主は雅楽が必修で、私は横笛を担当しています。龍笛・高麗笛など長さの違う笛を持ち替えて演奏するのですが、息の当て方など、笛の吹き方が少しづつ異なるので、笛を変えながら演奏を続けるのは難しいです。以前は中秋の名月に合わせて開催していましたが、年によっては9月開催となるので、暑さに考慮して十三夜の暦を調べたり、月の状態が良い日を選んでたりして、開催日を決めています。

—祭事のない日は何をされているのでしょうか。
季節によって勤務時間は変わりますが、今の時期（取材時7月）は8時半に出勤してから掃除、御朱印などの窓口業務、ご祈祷、神札授与などをやって、17時で退勤します。宿直のときは4時半に起きて5時に開門し、12時まで勤務しています。広報担当としては、3カ月ごとに発行する社報の誌面をつくるための準備をしています。最新号が出来たばかりですが、次の原稿に取りかかっています。

—何名の方が働かれていますか？
神主は県内が一番多く20名います。他にも巫女10名、社仕10名、事務や結婚式受付など合わせて50名程が働いています。毎月1日の月次祭（つきみなみさい）、15日の献詠祭などお祭りにも考慮しながらシフト制で勤務しています。年始めには学生アルバイトが150名程来ます。

—Instagramにこだわりを感じますが、広報をする上で力を入れていることを教えてください。
Instagramは「コロナの少し前から始めました。フォトグラファーの工藤裕之（くどうひろゆき）さんや境内で営業している中村写真館さんから写真を提供していた



武蔵一宮 氷川神社

【住所】さいたま市大宮区高鼻町1丁目407 【電話】048-641-0137

だいた、カメラが趣味の神主が境内を撮影したりしています。季節ごとに発行する特別な御朱印、花屋美園苑さんから奉納されたお花など、目を引くものを載せています。
このコラム「氷川風土記」は民俗学者の山崎敬子（やまさきけいこ）さんにテキストを依頼し、伝統的な文化や歴史について深く知社報は、初めて来た方が手に取っても分かりやすい紙面を目指してつくっています。

—最後に、おすすめの本を教えてください。
植物生態学者である宮脇昭（みやわきあきら）さんの生涯について書かれた本です。阪神淡路大震災で大きな被害のなかでも、鎮守の森が古くから植えられていた木がある場所は被害が少なかったことから、宮脇さんは鎮守の森を調べればその土地にあった木が分かるという調査方法を見つけた。開発において伐採される木が増えるとともに、環境破壊も増えていくなかで、その土地にあった木を植樹する事業に携わり、日本全国だけでなく、海外でも多く植樹活動をされていました。

—今まで氷川神社には気軽にお参りに行っていました。が知らないことも多く、今回なかなか接することのできない神主さんからお話を伺うことができ、目から鱗が落ちる思いでした。

紹介した本

『魂の森を行く』3000万本の木を植えた男』
一志治夫／著 新潮社 2006年

関東圏で生まれ育った私には、大阪弁に対してうすばんやりとした憧れがあります。お笑い番組が好きだったからでしょうか。そんな気持ちに添えてくれる絵本が『ぼくは犬や』です。作者のベク・ヒナさんは韓国人なので、この絵本の舞台は韓国だと思われます。けれど、自分の思いを語る犬の大阪弁がなんの違和感もなく、いやむしろそれ以外考えられないほどしっくりとはまっています。大阪府出身である長谷川義史（はせがわよしふみ）さんの訳が秀逸だからです。

ベクさんは自らを「人形いたずら作家」と名乗っています。粘土で人や犬を作り、描いた背景と組み合わせるという方法で絵本を作っています。その人形たちの表情がいちいちクセつよ（ほめてる）で、むき出しの感情がひしひしと伝わってきます。ベクさんといえば『あめだま』を思い浮かべる人も多いかもしれませんが、これはその前日譚ともいえるべき作品です。ぜひ両方とも読んでほしいです。いろいろしみりますから。それにしても犬と子どもの組み合わせってやっぱり最強です。

紹介した本
『ぼくは犬や』
ベク・ヒナ／作
長谷川義史／訳
プロズ新社
2020年



大西民子の一首

煽られし楽譜を拾ふ時の間に
ドビュッシーもわれは逃がしてしまふ

『無数の耳より

民子がドビュッシーの「水のたわむれ戯れ」を弾いていると、ふと風が吹いて楽譜が舞い落ちました。楽譜を拾って弾き直そうとした時には、自分の中で浸り始めたドビュッシーへの感慨まで述べてしまつたような気持ちになつたのでした。

取り扱った本
『神さまのいる書店 まほろばの夏』
三萩せんや／著 KADOKAWA 2015年



中では大々的に「大宮」が物語の中心地として登場します。本が好きな女子高生・紙山ヨミ（かみやまよみ）は、学校の司書教諭から夏休みのアルバイト先として書店を紹介されます。そこは、なんと本に魂が宿っている「まほろば」という生きた本が並ぶ書店でした。ある日忽然と盗まれました。神さまが宿る貴重なまほろばを取り戻すために、ヨミはまほろば本のサクラヤと、店主ナラブと共に犯人を捕まえるべく大宮の街中を駆け巡ります。

『神さまのいる書店まほろばの夏』は、埼玉県在住の三萩せんや（みはぎせんや）が執筆した、架空の都市「さきみたま市」を舞台としたファンタジー作品です。どこか聞き馴染みのある都市名ですが、作

ゆかりの文庫
「111」

わたしの
きんえほん

歴史部

「燕が低く飛んだら雨」「夕焼けの日は晴れ」昔からの言い伝えにはそれぞれ根拠があるそうですが、みなさんはどんな予報をご存じですか？

気象現象が何によってもたらされるのかについての考察はギリシア哲学まで遡ることができます。アリストテレスが世界を「天上界」と「地上界」に分け、それぞれ「天体論」と「気象論」として観察からもたらされた考察を記しています。

近代的な気象予報に至るには、まず気象観測のための機器の発明と発展が必要でした。気温計や気圧計が発明されたのは17世紀になってから。ヨーロッパで天気図が初めて作成されたのは1820年のことでした。1849年イギリスでは鉄道網を使って各地での観測結果をロンドンに集め、翌日にはそれを新聞で発表されたそうです。

毎日の天気図が国家によって公開され始めたのは1863年、フランスでのこと。その後各国が気象事業を本格化します。日本での天気図作成は明治に入ってしばらく経った1883年、初めての天気予報は翌年6月1日でした。1875年に東京気象台が設置され、観測が始まってからちょうど9年後のことです。現在6月1日は「気象記念日」に制定されています。

気象災害が頻発する現代ですが、気象現象が地表から10kmほどの対流圏で起きていることに驚きます。地上なら歩けるほどの距離で起こる大気の流れが大きな災害をもたらすこともあるのです。今は天気予報だけでなく、頭上の雨雲の様子をスマホでリアルタイムに知ることができます。早めの対策で安全に過ごしたいですね。

参考文献

- 『アリストテレス全集5 気象論・宇宙論』アリストテレス／著 岩波書店 1969年
- 『気象学と気象予報の発達史』堤之智／著 丸善出版 2018年
- 『図解 天気予報入門』古川武彦・大木勇人／著 講談社 2021年
- 『雨、太陽、風 天候にたいする感性の歴史』アラン・コルバン／編 藤原書店 2022年

取材二ぼれ話



2010年 エイベックスマーケティング 小野リサ『コンプリート・ベスト』

休日。家には自分一人。用事は午前中に済ませ、午後からはのんびり過ごすという少しのアルコールと好きな食べ物を準備。そんな時、BGMにしたいのがボサノヴァです。

ボサノヴァは、1960年代にブラジルのアーティスト達がジャズなどの影響を受けて新たに作り出したものです。ただ、踊れるような音楽ではないためブラジル国内では賛否両論あり、人気があったのは数年だけでした。しかし、アメリカを始めブラジル以外の国で多くのファンを獲得し、ボサノヴァの名曲「イパネマの娘」が演奏された回数は、ビートルズの「イエスタデイ」に続き世界で2番目に多いそうです。

作曲家のアントニオ・カルロス・ジョビンと作詞を担当したヴィニシウス・デ・モラエスが、リオデジャネイロのイパネマ地区にある行きつけのレストランで食事をしてた時のこと。15歳の少女が店の前を通り過ぎるのを見た二人がその美貌に釘付けとなり、その場で「イパネマの娘」を制作したという逸話があります。しかし、かなり誇張して伝えられているようで、実際に曲を書きあげたのは自宅のピアノの前だとか。

ちなみにこのレストラン、当時とは名前を変えて現在も営業中。いろいろな編成で演奏されるのもボサノヴァの魅力で、私のお薦めは小野リサ『コンプリート・ベスト』。しっかりとしながらも明るい歌声。ボサノヴァの名曲からスタンダードナンバーをアレンジしたものもあり、初めてボサノヴァを聞くという人にも、聞きやすいと思います。食事をしながら聞いていると、カフェにいるような気分になります。

- 参考文献 『音楽でたどるブラジルーこの街で「イパネマの娘」に恋をした。ー』Willie Whopper／著 彩流社 2014年
『こんな音楽があったんだ！ー目からウロコのCDガイドー』みつとみ俊郎／著 清流出版 2004年
『アントニオ・カルロス・ジョビンーボサノヴァを創った男ー』エレナ・ジョビン／著 青土社 1998年



Xではイベントやスタディーコーナーの待ち人数など大宮図書館の情報を日々ポストしています。ぜひ、フォローしてみてくださいね！

この刊行物の書影画像はBOOKデータASPから引用しています。

まゆっこ20号に寄せて

だ（）やはり図書館のことを書くべきなのだろうか。そうなのだろうか。私は図書館の持っている魅力は相当なものと思っている。単純に個人では購入しきれない量と質の資料があり、毎週新刊が増えたりと一生読むことに困ることはないし、調べたいことがあればそれに関する資料やサポートが得られるという点で、図書館の基本的な魅力だ。でもそれだけ得られるインプットだけが魅力の大部分という訳ではない。そして、大宮図書館が特に利用者に提供したいことは、「今日は良い時間の過ごし方をしたな」と感じてもらいたいことだ。良い時間の過ごし方とは、それが私生活の場所であること、ポジティブなセルフイメージが生み出されたり、心地よさが感じられたりすること、心が私生活に知覚の充足感とともに精神的な充実感を感じたりすること、それにより様々な存在が地域の方々にとって少しも誇りに思ってもらえるならなおさら嬉しい。

大宮図書館館長

世の中に浸透してきた感のある「SDGs」（持続可能な開発目標）。実際に自分達の生活と「SDGs」がどう結びつくのかピンと来ない方もまだまだ多いのではないのでしょうか。

『コーヒーで読み解くSDGs』は、私たちに気分転換やリラックスタイムに欠かせない身近な飲み物「コーヒー」を通して、大手コーヒーメーカーの社員だった筆者らが、「SDGs」を丁寧に読み解き分かりやすく解説しています。「コーヒーとSDGsって関係あるの？」と疑問に思う方もいらっしゃるかも知れませんが、本書を読み進めると、実はコーヒー産業が自然環境や格差問題、社会制度などにも多大な影響を与えていることが分かります。

例えば、コーヒー生産国の多くは開発途上国ですが、そのほとんどを消費しているのは日本を含む先進国です。もし私たちが安価なコーヒーばかりを飲むと、生産者は低品質・低価格のコーヒーを大量に生産するようになり、それが国際価格の低迷と生産者の貧困や不平等などを招くことになるのです。

コーヒー消費量世界第4位である日本。コーヒーの大量消費者である我々は、生産者である開発途上国が今どんな状況にあるかをあまり知りません。しかし本書でその理解を深めることができれば、いつも美味しく飲んでいるコーヒーを通して、私たちが生活のなかでできることを知ることができます。なかなか普段の生活では意識しづらい社会問題も、コーヒーブレイクの度にちょっと思い出して、社会貢献へのアクションを起こすきっかけになるかも知れませんね。

さて、普段使わない脳みそをフル稼働させていたら喉がカラカラになってしまいました。こーいって私は、香り高いコーヒーでも淹れて一休みさせて頂きます。では、次のお題は「香り」でお願いします。

第7回 テーマ『格差』

紹介した本
『コーヒーで読み解くSDGs』
Jose・川島良彰／著
池本幸生／著
山下加夏／著
ポプラ社 2021年
紹介者：ちい



toshostagram トショスタグラム



大仏が埋まっているみたいな空間

- # 螺旋
- # 図書館近くの小径から見える珍百景
- # アルマジロ？
- # 正体わかる人は教えてください

